

令和元年神奈川県議会本会議 第3回定例会
かながわグランドデザイン調査特別委員会

令和元年12月12日

谷口委員

グランドデザインの中にも位置づけられておりますが、企業連携に関連して、民間企業との包括協定について伺っていきたいと思います。これについては、9月の代表質問で、私が取り上げさせていただいたて、こここのところ、企業との包括協定がかなり多くなり、特に黒岩知事になってから、今23の協定を結んでいる中で、平成23年以降20社との協定が結ばれていて、発表するときは大々的に発表するが、それ以降、どのような具体的な仕事、取り組みができたのか見えない部分もあったので、本会議では、1回棚卸しをして、要るもの要らないもの、また、発展させられるもの、させられないもの、そうしたことを1回整理したほうがいいのではないかとの話をさせていただきました。

答弁では、6月から既に各締結企業との意見交換を行っているとの答弁がありましたので、そのところを詳しく伺っていきたいと思いますが、その後、この23社を回られて、さまざま状況を確認している中で、今、どういう状況なのかを教えていただきたいと思います。

未来創生課長

企業との包括連携協定の実効性をより高めるために、6月以降、協定締結企業と丁寧な意見交換を実施し、顔の見える関係を改めて構築してまいりました。意見交換では、県が抱える社会的課題や企業側のニーズを改めて共有させていただくとともに、企業が持つネットワークや新しい取り組みをお伺いさせていただき、これまでの取り組みを一層加速する仕掛け、あるいは新たな連携の可能性を探ってまいりました。また、既存の協定に捉われることなく、場合によっては協定自体の見直しも含め、新たな連携事業について検討していくこともお話しさせていただきました。さらに、知事と協定締結企業のトップが集うトップミーティングの開催についてもお話しさせていただきました。県を中心に、複数の企業の方が連携して、課題解決に向けて新しい取り組みを検討する、このような仕組みの構築についても意見交換をしてきました。

谷口委員

恐らく一番古いので平成21年ですから、ちょうど10年前からさまざまな協定の締結が始まっていますが、担当者が変わり、何の話ですか、というところも恐らくあったでしょうし、きちんと引き継がれているところもあったかと思うのですが、今おっしゃられた協定の見直しとかトップミーティングとか、それぞれ各企業がどういう反応だったのか、その辺の感触をいただきたいと思います。

未来創生課長

今回、意見交換させていただき、企業の方からは、既に、現在連携しているのですが、それをもう少し充実していきたいといった御意見、あるいは、その間、新たなサービスや商品を開発されていますので、まず、そういったソリューションを、何らかの社会的課題の解決策を提供させていただきたい、そんなお話があったり、県が23の企業と連携してきましたので、ほかの企業と連携し

たいといった御意見も頂戴しました。そうしたことから、例えばトップミーティングみたいな場で、企業のトップの方が直接意見交換をする、異業種の企業が集まって何か新しいことを生み出す、そんなことにこれから期待する、そんな意見が多かったです。

谷口委員

トップミーティングという話が今も出ましたが、なかなか日程調整も含めて難しいと思うのですが、今どういう状況まで来ているのか教えてもらえませんか。

未来創生課長

今回のトップミーティングにつきましては、限られた時間を効果的に使いたいと考えています。したがいまして、フリーな意見交換ではなくて、ある程度テーマを絞った形でまずやりたいと考えております。そして、県と、御参加いただいた企業の間で、一つでも多くの具体的な連携案を発案していきたいと考えています。ただ、正直、日程のほうは大変厳しいものがあるのですが、できれば1月下旬、あるいは2月上旬、このぐらいをターゲットに、これから企業の方と調整をいただきたいと考えています。

谷口委員

全体的に、トップミーティングに対する感触は、ぜひというのが多いのか、その辺ちょっとということが多いのか。

未来創生課長

非常にアイデアとしてはおもしろいとの話がありました。それ以外に、例えば社会的に貢献をしたいというお気持ちを持っている企業の方が非常に多かつたので、県の抱える新しい社会的課題に対して、上のレベルで話すのは、ひとつの意義があるのではないかといった御意見がありました。

谷口委員

テーマを絞ってということですが、現段階で言えること、言えないことがあるかと思うのですが、どういうものを想定しているのか、具体的なイメージを教えてほしい。

未来創生課長

トップミーティングで意見交換を行うテーマでございますが、異なる分野の企業の方が、いろいろな強みを持ち寄り、連携して取り組む社会的課題を二つから三つ選定したいと考えております。まだ企業と、いろいろ調整している状況ではございますが、例えば、災害対策であったり、あるいはコミュニティの再生・活性化であったり、ＩＣＴを活用した取り組みといったテーマを現在のところは想定しております。

谷口委員

ある程度テーマを絞らないと議論が多分散漫になる可能性もあるので、それはいいと思うのですが、ぜひ、具体的な成果につながっていくテーマの絞り方等をお願いしたいと思います。

それで、日程調整の段階で、なかなかトップが出てこられないところもあるかと思うのですが、仮に出てこられなかつたところに対するフォローはどのように考えているのですか。

未来創生課長

トップミーティングには、正直、本当のトップの方が出ていただけるかとの課題がありますが、そもそも、このようなミーティングに、日程の都合上、御参加いただけなかつた場合も考えられるかと思います。そのような企業の方には、まず、開催後に、実はこんなことがいろいろ課題としてあり、それに対して、このような企業と一緒にこんなことをやる、あるいは、このような方向性を決めました、ということを、事後にきちんと情報共有させていただきたいと思っています。

あるいは、そういった取り組みがあるのですが、ぜひ御参加いただけませんかと、そういったお声がけもしていきたいと思っております。

結局、23の企業と結んでおりますが、積極的に連携させていただいている企業との間で情報交換をして、何か新しいことをつなげる。それが非常に重要なと思っておりますので、引き続き意見交換を丁寧にやっていきたいと思っております。

谷口委員

トップミーティングのその日のトップミーティングの持ち方ですが、ややもすると、ある意味、事務方で、こういう流れで決まっていて、何となくトップの方がそこに座っていて、これしゃべってくださいと言われたものをしゃべるだけで終わってしまうと、集まっていたいた意味があまりないと思いますし、やはりそこで、トップ同士の何か化学反応が起きて、それでは、こういうことをやろうよということが、やはり出てくるような、何かそういう仕掛けが、大事だと思います。

一方で、そこで出た化学反応がしぼんでしまうといけないので、そこで出たさまざまなアイデアとかを具体化していくために、その後のことも大事でしょし、その辺も含め、大体どういうミーティングの持ち方をイメージしているのか。先ほど1月下旬から2月上旬というお話をしたから、その辺のところを聞かせていただきたい。

未来創生課長

まず、本当に何もない中から集まるのはなかなか難しいので、今、各企業との対話を重ねている中で、例えば、あんなこと、こんなことができるといった情報が我々のところに集約されていますから、我々のほうで、少し連携イメージを形づくり、まず、事務レベルで、こんなのどうですかという調整をまずします。とはいって、秘書とお話ししていると、当日、何言うかわからないよというのも正直なところで、逆に我々としてはありがたい一面もありますので、しっかりと、我々としての、今の社会的課題に対する、こういうことができるという側面と、当日そういうこともあるであろうということも想定しながら、しっかりと対応していきたいと考えています。

谷口委員

大体、2時間ぐらいの会場をイメージしているのですか。

未来創生課長

これも、企業とお話ししていて、2時間も正直厳しいのかなというところです。なので、本当に1時間前後かなと。これもこれから企業との調整になる

わけですが、1時間から2時間というのは想定しています。

谷口委員

トップミーティングをやって、終わりました、万歳ではだめですので、その後、しっかりと具体的な事業に、取り組みにつながっていくように、そこはしっかりと仕込んでいただきたいと思います。

そして、トップミーティング自体の取り組み、フォローを私もさせていただきたいと思いますが、全体の方向性はそれでいいかと思うのですが、具体的に、今回の協定、個々の協定について、今後、見直しはどのようにしていくのか、確認させてください。

未来創生課長

現在、締結している協定の見直しですが、企業それぞれで、非常に幅広い分野で締結しているものもあれば、限定しているものもあります。なので、トップミーティングでの議論を踏まえて、企業に応じて、あるいは最近の社会的課題に対して、どのようなことができるかを少し融合させて、これから企業と調整していきたいと考えています。

谷口委員

あまりイメージがよくわからない。具体例で何か出せるものがありますか。

未来創生課長

一番最近締結したのは、ことしの8月のメルカリがあるのですが、例えば、高齢者の方のいきがいづくり支援や障害者の方がつくられた販売物の普及促進、あるいは教育など、大きく四つやろうとしているのですが、例えば、今回トップミーティングで合意された内容が、その四つに包含されるのであれば、あえて見直す必要がないと考えています。ただ、従前締結した協定の中で、全く想定もしていなかったものでできたら、それを見直すとか、それは個々の企業により違ってくるものと認識しております。

谷口委員

一覧表を見せていただくと、比較的、当初は工事道路会社、その後は、スーパー、コンビニとかいうようなところが、最初のころの提携では見えるのですが、この辺で、個々の例はなかなか言いづらいと思いますが、かなり以前に締結しているところは、何か見直しの具体的なイメージはありますか。

未来創生課長

最初に結んだのは平成21年、スリーエフになります。実は、項目は多岐にわたっており、先ほどのメルカリとは四つとお話ししましたが、スリーエフとはございまして、例えば農林水産物の普及促進や観光振興など多々あるのですが、そこに、例えば出ていない新しい課題をやらなければいけない等はそれにありますし、読み込めるのであればそれで対応しますし、恐らく、今回何かを企業とやらせていただくのが一つの大きなゴールですので、協定の締結はゴールではないので、そこは企業と調整の中で対応させていただきたいと考えています。

谷口委員

少し年代は違いますが、高速道路に關係する、中日本、東日本、首都の各高速道路株式会社とも締結されているのですが、今までどのようなことをやられ

てきたのですか。

未来創生課長

例えば、中日本は平成22年に締結させていただきました。分野は四つで、観光産業振興、環境、防災、教育、福祉分野です。基本的には、高速道路のインターインターチェンジで県のチラシを入れたり、そういう御協力を中心にやらせていただいていると考えています。

谷口委員

先ほど、トップミーティングのテーマが災害とかとの話も出ていましたが、提携先の一覧を見ていると、いろいろな面で、これからも御協力いただくところはたくさんある感じがしますので、ぜひ、ここはしっかりと選定していただきたいと思います。

最後に、企業連携の今後について、どのように取り組みをしていくのか、お伺いしたいと思います。

未来創生課長

民間企業の方との連携ですが、まずは、やはり県が抱える社会的課題を企業の方と共有させていただきたいと思っております。その次に、県としてしっかりと情報収集のアンテナを張り、民間企業の方の最新の動向、例えば、技術や製品といったものを把握することが重要だと認識しております。

そして、今後開く予定でありますトップミーティングといった場を活用し継続的に意見交換はさせていただき、そのような中で、県が抱える社会的課題に新しい企業の方のソリューションを持ち込んで、こういうような解決の手法があると、それを一緒になって議論をしていきたいと考えています。

最終的に、実績を一つ一つ積み重ねることにより、神奈川となら一緒に価値ある取り組みできそうだと企業からの信頼を勝ち得ていきたいというように考えていて、いずれは、企業の方から県にアプローチしていただける環境をつくりしていくのが非常に大事だと思っています。

谷口委員

6月から一回、この協定の、ある意味棚卸しをして、見直しや、これからさらに発展させるために何ができるかを取り組んでいただいているわけですが、ややもすると、1回棚卸しして見直したものを、こういう形で見直していくよという、発表というか、まとめの時期は、お尻を決めておかないといけない気がするのです。でないと、携わっている方々も、進捗状況がどうなっているのかなとなるでしょうし、できれば1月か2月のトップミーティングを終えて、いろいろな協定見直しもやり、どこかの時点で、いや、こういうふうにしていきますという、何か報告なり発表なり、公表なりをしていただいたほうがいいと思うのです。最後にそこだけ、お考えを出してください。

未来創生課長

私の希望的観測も含めてですが、今回、企業との新しい取り組みが生まれるのではないかと思っています。当然そういうことで、例えば、いつできる、いつやるみたいなことも含め、このトップミーティングで整理した結果については速やかに発表させていただきたいと考えております。

谷口委員

ぜひ、成果の見える化をきちんとやっていただくようにお願いし、質問を終わります。

意見発表

谷口委員

公明党として意見発表を行います。民間企業の包括協定について申し上げます。

1月下旬から2月上旬にかけて予定をしているトップミーティングについては、事前に用意された筋書きに沿ってトップが発言するようなものではなく、その場で、いわゆる化学反応が起こるようなエキサイティングな場にしてもらいたいと考えます。さらに、そこで出たアイデアが、その場限りではなく、具体的な事業、取り組みに発展させられるよう力を尽くしていただきたいと思います。

また、協定の見直しや新たな企業連携の動きについては、今回の棚卸しを行った結果を発表になるような形で、しっかりと見える化するよう要望して意見発表とします。